

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	新編論理国語(東京出版)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)						

1. 科目の目標

<p>言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他社との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	対話とは何か(p8~) 世界をつくり替えるために(p15~) 「ふしぎ」ということ(p37~) 資料を整理し、テーマを吟味しよう(p46~)	
2学期	ラップトップを抱えた「石器人」(p66~) 思考の肺活量(p76~) 安心について(p83~) 仮説を立てて検証しよう(p93~)	
3学期	弱肉強食は自然の摂理か(p102~) はじめに「言葉」がある(p124~) 楽に働くこと、楽しく働くこと(p132~)	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習等の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など
学習方法	言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養うことを目的とします。「働くこと」「自然科学」など、多様なテーマの教材を取り上げます。ただ授業を聞くだけでなく、自分なりの意見や考えを持って主体的に学習に取り組みましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	標準文学国語(第一学習社)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)						

1. 科目の目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	多様性の尊重 — 多様性を理解・受け入れ、思いやることができる—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	自己と他者に対する思いやりの気持ちを備え、多様な人間の在り方とそれにもとづく文化や価値観に触れ、それを尊重し行動できる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	多様な人間の在り方とそれにもとづく文化や価値観をふまえ、自らの思いを大切に、それを尊重し行動できる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	他者や他文化に対する思いやりの気持ちを備え、それを尊重し行動できる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	他者や他文化に対する思いやりの気持ちを備えている。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	小説「デューク」江國香織 詩「生命(いのち)は」吉野弘「食事」高階紀一 小説「ナイン」井上ひさし 随想「花のいざない」観世寿夫 文学のしるべ...世界と向き合う物語／ユーモアと風刺の業師	
2学期	随想「真珠の耳飾りの少女」原田マハ 小説「ころ」夏目漱石 文学のしるべ...漱石と「恋愛」	
3学期	小説「鼻」芥川龍之介 小説「バグダッドの靴磨き」米原万里 詩「わたしが一番きれいだったとき」茨木のり子 文学のしるべ.....夏目漱石から芥川龍之介、そして堀辰雄へ／人にとって戦争とは	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習等の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など
学習方法	近現代までの我が国の文学について学びます。登場人物の人間関係や心理を読み取るために語句の意味を調べたり、自分との比較を通して思考を深めたりします。当時の人々が見たり考えたり感じたりしたことを当時の言葉を通じて知り、その共通点に気づくことを意識しながら学習します。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	詳述歴史総合(実教出版)						
副教材(出版社)	詳述歴史総合 徹底整理演習ノート(実教出版)						

1. 科目の目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想し、ことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	課題を関連させながら自ら課題を発見し多角的な視点でその解決に取り組むことを通じて、社会貢献に向けた活動ができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	課題を自ら発見し、多角的な視点でその解決に取り組むことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	様々な課題を認識し、その解決に向けて計画を立てることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	様々な課題を認識することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化
2学期	第1編 近代化と私たち 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第4章 帝国主義の時代 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦(49節まで)
3学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3編 グローバル化と私たち	第6章 経済危機と第二次世界大戦(50節から) 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・復習プリント など	・単元テスト ・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・学習状況等の観察 など	・課題、レポート等の記述 ・学習状況等の観察 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	歴史総合は、中学までの歴史学習をふまえ、諸資料を活用して情報を読みとったりまとめたりする技能を取得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察する科目です。時代背景や因果関係を踏まえて事象を捉えられるように、教科書や副教材等を活用して学習しましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	公共(東京書籍)						
副教材(出版社)	公共 ワークノート(東京書籍)						

1. 科目の目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究した解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵 かん 養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベ ル	郷土の未来創造 — グローバルな視点を持ち、郷土の未来を想像できる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、公共の授業で得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる	4	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバルな視点を持って、地元へ貢献するのに必要なリーダーシップ、協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、公共の授業で得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる	3	現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、地元へ貢献するのに必要なリーダーシップ、協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、公共の授業で得た知識や情報をまとめることができる	2	現代の諸課題を追究する活動を通して、地元へ貢献するのに必要な協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
相談しながら公共の授業で得た知識や情報を集めることができる	1	地元へ貢献するのに必要な想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1部「公共のとびら」 第1章:公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己 第2章:公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理 第3章:公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	第1章:現代社会に生きる青年 社会的な関係のなかで生きる人間 第2章:功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理 第3章:公共的な空間における協働とは 民主主義とは 立憲主義とは 人権保障の意義と展開
2学期	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章:民主政治と私たち 第2章:法の働きと私たち 第3章:経済社会で生きる私たち	第1章:私たちの民主政治 地方自治のしくみと役割 国会のしくみと役割 内閣のしくみと役割 政治参加と選挙 政党と利益集団 メディアと世論 第2章:法と社会規範の役割 法の成立と適用 市民生活と法 多様な契約 消費者の権利と責任 司法のしくみと役割 刑事司法と司法 参加の意義 第3章:私たちがと経済 市場経済のしくみ 国民所得と経済成長 金融のしくみと働き 中央銀行の役割と金融 環境の変化 財政の働き 財政の課題 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから
3学期	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第4章:私たちの職業生活 第5章:国際社会のなかで生きる私たち	第4章:働くということ 多様な職業選択 労働者の権利 現代の雇用・労働問題 第5章:国際社会の成り立ち 国際連合の役割 日本の平和主義と冷戦 冷戦後の世界と日本 現代の紛争とその影響 平和な国際社会に向けて 貿易のしくみ 国際金融のしくみと動向 グローバル化と今日の国際経済 国際経済の諸課題

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	○定期テスト ○単元テスト ○レポート課題 ○資料の読み取り ○学習の振り返り	○定期テスト(論述問題など) ○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り	○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り
学習方法	授業は、教科書を中心にして進めていきます。まずは教科書を理解することが大切です。時事的な話題を絡めながら授業を行っていくので、ニュースや新聞などをよんでいるとさらに理解を深めることができます。単元テストは、知識を問う問題が多くなる予定です。定期テストでは、教科書の中にあるデータ等を利用した問題を出題する予定です。資料の読み取りができるようになっていくとよいと思います。高校卒業後に役に立つような情報をたくさん提供していこうと考えています。今後自立しながら自分で生きていくことを踏まえ、世の中のことについて興味関心を持つことができれば、生きる力を身に付けることができます。		
ICT活用	Google(資料等検索)、ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約)、Forms(単元テスト・振り返り・アンケート)		

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	新編 数学Ⅱ(数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学Ⅱ+B						

1. 科目の目標

<p>(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心を持ち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心を持ち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心を持ち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第0章 データの分析 第1章 式と計算	(1)データの代表値 (2)データの相関 (3)3乗の展開、因数分解 (4)等式、不等式の証明
2学期	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	(1)虚数の考え方 (2)虚数解をもつ方程式 (3)直線の方程式
3学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数	(1)円の方程式 (2)軌跡と領域 (3)弧度法の表し方

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・授業中の課題への取り組み状況	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・発表やプレゼンテーション	・課題レポートへの取組状況 ・週末課題の提出 ・スタディサプリへの取組状況 ・意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	数学Ⅰで学んだ展開、因数分解、2次関数、三角比を基に、少し発展した内容を学びます。数学Ⅰでは「2乗、2次関数、三角比」だったものが数学Ⅱでは「3乗、3次関数、三角関数」などに変わります。数学Ⅰの内容を押さえておけば理解しやすい分野ですので、自主的な復習なども取り入れながら授業に臨んでください。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)Miro(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	新編 数学B(数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学Ⅱ+B						

1. 科目の目標

<p>(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 数列	(1)等差数列と等比数列 (2)一般的な数列の考え (3)漸化式と数学的帰納法
2学期	第2章 統計的な推測	(1)標本調査 (2)確率変数と確率分布 (3)二項分布、正規分布と仮説検定
3学期	第3章 数学と社会生活	(1)1、2学期の復習と演習 (2)日常生活への利用、レポート作成

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 定期考査 授業中の課題への取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 定期考査 ペアワーク、グループワークの活動状況 発表やプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 課題レポートへの取組状況 週末課題の提出 スタディサプリへの取組状況 意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	1、3、〇、7 の〇に入る数は？答えは5ですよね。世の中にはある法則に従って並ぶ数があります。それらを数列と呼びます。また、先日、熊本県知事選もありましたが、「当選確実」などの報道は、出口調査や事前のデータ分析など、様々な視点からアプローチされています。数学Bでは数列や統計的な推測を通して、数学の面白さを発見したり、世の中の事象を分析し、数学的な根拠に基づいて批判的に考察する力を身に付けます。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理および分析)Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、電子黒板		

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	i版 化学基礎(啓林館)						
副教材(出版社)	普通科・2024新課程版セミナー化学基礎+化学 マンガ学科2024新課程版セミナー化学基礎						

1. 科目の目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などを行う基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、習得した知識を日常生活に活かすことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、新たな知識を習得することができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1部 物質の構成	第1章 化学と物質 第2章 物質の構成粒子
2学期	第1部 物質の構成 第2部 物質の変化	第3章 化学結合 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基
3学期	第2部 物質の変化	第3章 酸化還元反応

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・実験、観察での活動状況 など	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・実験、観察での活動状況 など	・課題レポートへの取組状況 ・振り返りレポート ・自己評価とその後の学習の調整状況 など
学習方法	化学基礎は、何気ない日常生活から先端科学技術に至るまで、あらゆる事物・現象に関わる知識や考え方を学ぶことができるとても楽しい科目です。確かに、習得すべき知識はたくさんあるかも知れませんが、頑張り続けてきた知識の繋がりが見えると、日常生活の理(ことわり)がわかって楽しさ倍増です。日常生活の「なぜ」に出会う度、「自分で考える力」を鍛えましょう。「なぜ」が解明される度、また新たな知識を求めて探究心を養いましょう。		
ICT活用	①学習ファイルの管理 ②単元テストへの対策 ③学習の振り返り・調整 ④定期考査 ⑤ペアワーク、グループワークでの積極的な意見交換 ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(実験データ整理)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)		

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	生物基礎(東京書籍)						
副教材(出版社)	普通科:新課程版 セミナー生物基礎+生物/マンガ学科:新課程 セミナー生物基礎(第一学習社)						

1. 科目の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	多様性の尊重 — 多様性を理解・受け入れ、思いやることができる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報に関連付けてまとめ、他者の課題解決に役立てることができる	4	自己と他者に対する思いやりの気持ちを備え、多様な自然とそれにもとづく文化や価値観に触れ、それを尊重し行動できる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報に関連付けながらまとめ、自身の課題解決に役立てることができる	3	多様な自然とそれにもとづく文化や価値観をふまえ、自らの思いを大切にし、それを尊重し行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	他者や自然に対する思いやりの気持ちを備え、それを尊重し行動できる
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	他者や自然に対する思いやりの気持ちを備えている

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1編 生物の特徴 4編 生物の多様性と生態系 1編 生物の特徴	1章 生物の多様性と共通性 1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性 2章 生物とエネルギー
2学期	2編 遺伝子とそのはたらき 3編 ヒトの体の調節	1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質 1章 体内環境と情報伝達
3学期	3編 ヒトの体の調節	2章 免疫のはたらき

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	定期考査 単元テスト 小テスト など	定期考査 単元テスト レポート プレゼンテーション など	課題 振り返り 学習状況 など
学習方法	生物を学ぶことは自分を知ることです。暗記科目ととらえられがちですが、単に丸暗記するのではなく、教科書に書いてあることを自分や周りの生き物と関連付けながら理解を深めてほしいと思っています。楽しく一緒に学びましょう！		
ICT活用	ドキュメント(レポート等)、スプレッドシート(データ整理)、スライド(プレゼンテーション)Forms(テスト実施、テスト作成、アンケート)、Jamboard(意見交換、アイデア出し)、Youtube(動画視聴)、スタディサプリ(講義・課題)など		

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)						
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート改訂版・アクティブスポーツ【総合版】(大修館書店)						

1. 科目の目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者と共に課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、発表することが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	・体作り運動 ・ダンス ・陸上競技(短距離、跳躍) ・球技 ・体育理論	・体ほぐしの運動、実生活の生かす運動の計画 ・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・現代的なリズムのダンス ・1「スポーツにおける技術と体力」 ・2「スポーツにおける技術と戦術」
2学期	・球技 ・陸上競技(長距離) ・体育理論	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・長距離走 ・3「技能の上達課程と練習」 ・4「効果的な動きメカニズム」
3学期	・球技 ・ダンス ・体育理論	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・創作ダンス ・5「体カトレニング」 ・6「運動やスポーツでの安全の確保」

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト ・学習状況の観察及び記録	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・取り組む姿勢の変移 ・授業に
学習方法	健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえたとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす。さらには、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものです。これらのことを理解して学習活動に主体的に取り組んでください。		
ICT活用	①電子黒板及びスクリーンの動画視聴 ②タブレットカメラ及びビデオ機能(振り返し・資料) ③スプレッドシート(データ整理) ④Forms(振り返し・アンケート)		

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	2 年
教科書(出版社)	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)						
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート改訂版						

1. 科目の目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う</p>
--

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者と共に課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、発表することができる	3	考え方の違う相手から意見を引き出し、その異なる意見を尊重し、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	異なる意見を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	3. 生涯を通じる健康	1「ライフステージと健康」 ～ 7「中高年期と健康」
2学期	3. 生涯を通じる健康 環境づくり	4. 健康を支え 8「働くことと健康」 ～ 10「健康的な職業生活」 ～ 5「食品の安全性」
3学期	4. 健康を支える環境づくり	6「食品衛生にかかわる活動」 ～ 11「健康に関する環境づくりと社会参加」

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察	・ノートの記述 ・ワークシートの記述 ・学習状況の観察 ・小テストの結果
学習方法	保健は非常に魅力的な特性を備えています。その1つは、「健康・安全」がすべての人にとって、自己実現するプロセスを根底から支えているという事実です。「健康・安全」について、あらゆる角度から探求していきましょう。		
ICT活用	①スライド(資料・まとめ) ②スプレッドシート(データ整理) ③Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	学年	2年
教科書(出版社)	VISTA English CommunicationⅡ(三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指す指導を通して、下記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。
 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。
 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力
 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	英語を通して自己と他者に対する思いやりの気持ちを備え、多様な文化や価値観に触れ、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR B2レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	英語を通して多様な文化や価値観をふまえ、自らの思いを大切にし、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR B1レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	英語を通して思いやりの気持ちを備え、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A2レベル)を身につけることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	英語を通して人の意見を尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A1レベル)を身につけることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 1 World Dance Performances Lesson 2 A Piece of Cake Lesson 3 Quakka 	<ul style="list-style-type: none"> 世界のパフォーマンス・want ~to do 慣用句の日英比較・疑問詞 オーストラリアの動物クオッカ・使役・知覚動詞
2学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 4 Designing Stamps Lesson 5 Mont-Saint-Michel Lesson 6 Smart Agriculture Lesson 7 Martial Art on Tatami 	<ul style="list-style-type: none"> 切手デザイナー・形式主語・目的語it 「モン・サン・ミッシェル」・現在完了進行形 未来のスマート農業 have been done かるたの世界・関係代名詞非制限用法
3学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 8 Biologging ENJOY READING! 1 The Open Window ENJOY READING! 2 The Christmas Truce 	<ul style="list-style-type: none"> 動物による科学調査・分詞・強調構文 サキ『開いた窓』 『クリスマス休暇』

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など	パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など
学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的につくりましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)スタディサプリ、ターゲット1400		

教科	英語	科目	論理・表現 I	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	VISTA Logic and Expression I (三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。

(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。

(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力

(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	郷土の未来創造 — グローバルな視点をもち、郷土の未来を想像できる —
知識の獲得に取り組み、英語を通して必要な情報の収集を行い、それらを自らの知識とし、自身および他者の課題解決に役立てることができる	4	グローバルな視点を持って、地元貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFBR B2レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
知識の獲得に取り組み、英語を通して必要な情報の収集を行い、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	グローバルな視点を持って、地元貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFBR B1レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	グローバルな視点を持って、地元貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFBR A2レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	グローバルな視点を持って、地元貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFBR A1レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	Lesson 1 Bouldering? How Nice! Lesson 2 Famous People Lesson 3 Aquarium Adventure Lesson 4 My Summer Plan Lesson 5 UFO Sightings	Lesson 1 自分のことを紹介する Lesson 2 興味のある人物について発表する Lesson 3 今していることをSNSで送る Lesson 4 夏休みの予定を話す Lesson 5 自分の経験したことを紹介する
2学期	Lesson 6 Homestay Lesson 7 Which Is Faster Lesson 8 Great Inventions Lesson 9 Save the Earth Lesson 10 Masterpiece	Lesson 6 メールを書く Lesson 7 比較表限 Lesson 8 優れた発明品について発表する Lesson 9 環境問題について発表する Lesson 10 芸術作品について話す
3学期	Lesson 11 My Future Job Lesson 12 World Heritage Lesson 13 Pictogram Lesson 14 Cool Japan Lesson 15 What's SDGs?	Lesson 11 My 将来なりたい職業について発表する Lesson 12 世界遺産を紹介する Lesson 13 ピクトグラムをつくる Lesson 14 日本文化を発信する Lesson 15 国際協力について意見を書く

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など	パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など
学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なことに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート) スタディサプリ、ターゲット1400		

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	未来へつなぐ 家庭基礎365(教育図書)						
副教材(出版社)	2024年度家庭科学習ノート(熊本県高等学校教育研究会家庭部会)						

1. 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るとする実践的な態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを他者へ伝えるために、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	A編 第1章 生涯の生活設計 A編 第2章 青年期の自立と家族・家庭 A編 第4章 高齢期の生活と福祉 A編 第5章 共生生活と福祉	①子どもはどのように生まれる？ ②子どもはどのように育つ？ ③これからの子育てとは？
2学期	A編 第5章 共生生活と福祉 B編 第1章 食生活と健康	①衣服の役割ってなんだろう ②衣服はどのように作られている ③自分で衣服をつくってみよう ④衣服の計画・管理を知ろう
3学期	B編 第1章 食生活と健康 A編 第3章 子どもの生活と保育	①何をどうやって買う ②かしこい消費者になろう

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・実技 など	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート ・レポート など	・学習状況の観察 ・課題等の内容 ・レポート など
学習方法	私たちは、家族や友達・地域の人とかかわりや、衣食住などを通して、社会と深くつながっています。毎日の生活を振り返り、問題点を見つけて改善することで生活を豊かにし、自立した生活を送るための準備をしましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、ジャムボード(意見集約・まとめ)Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、classroom(課題提出)、meet(発表)		

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	未来へつなぐ 家庭総合365(教育図書)						
副教材(出版社)	2024年度家庭科学習ノート(熊本県高等学校教育研究会家庭部会)						

1. 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを他者へ伝えるために、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができや	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	A編 第3章 子どもの生活と保育 第2章 衣生活と健康	B編 ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもとどうかかわろう？ ③これからの子育てとは？
2学期	B編 第2章 衣生活と健康 B編 第3章 住生活と住環境	①衣服の役割ってなんだろう ②衣服はどうやってつくられている ③自分で衣服をつくってみよう ④衣服の計画・管理を知ろう
3学期	C編 第2章 消費生活と意思決定	①何をどうやって買う者になろう ②かしこい消費者になろう

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・実技 など	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート ・レポート など	・学習状況の観察 ・課題等の内容 ・レポート など
学習方法	私たちは、家族や友達・地域の人とのかかわりや、衣食住などを通して、社会と深くつながっています。毎日の生活を振り返り、問題点を見つけて改善することで生活を豊かにし、自立した生活を送るための準備をしましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、ジャムボード(意見集約・まとめ)Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、classroom(課題提出)、meet(発表)		

教科	美術	科目	美術概論	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	マンガのしくみ (山猫有限会社)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

美術概論の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術としての美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができるようにする。
- (2) 美術に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 造形表現を追求する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	日本マンガ基礎文法、雑誌・コミック基礎知識	ページレイアウト、コマ割り、目線誘導入、入稿、印刷、製本について
2学期	マンガ素材研究、技法研究 パッケージデザイン	ドローイング、コラージュ、リアルイラストレーション等
3学期	アニメーション制作	ストップモーション動画制作

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

教科	美術	科目	素描	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	イチバン親切なデッサンの教科書(新星出版社)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1)表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。
 (2)対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。
 (3)造形表現を追求する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	鉛筆デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー	手のデッサン 静物デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー
2学期	鉛筆デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー	自画像デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー
3学期	鉛筆デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー	マンガモチーフ基礎デッサン デフォルメ表現 人物クロッキー

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	提出作品 小テスト	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	デッサンは描いた枚数と時間に比例して誰でも上達します。人よりも一枚でも多く描くつもりで制作に取り組ましよう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

教科	美術	科目	絵画	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	高校美術(日本文教出版)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 絵画表現の可能性を追求する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	マンガ表現につながる絵画制作	風景画制作 人物着彩
2学期	マンガ表現につながる絵画制作	イメージボード制作 イラストレーション画制作
3学期	マンガ表現につながる絵画制作	自己探求制作

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

教科	美術	科目	ビジュアルデザイン	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	高校美術(日本文教出版)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

<p>ビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを指す。</p> <p>(1)視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3)ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	マンガ表現によるビジュアルデザイン	マンガ文字制作 マンガ雑誌の表紙デザイン
2学期	マンガ表現によるビジュアルデザイン	イメージボード制作 イラストレーション画制作
3学期	マンガ表現によるビジュアルデザイン	自己探求制作

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<small>観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</small>	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
	学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。	
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

教科	学校設定科目	科目	マンガ制作	単位数	2	学年	2 年
教科書(出版社)	高森高校マンガ学科テキスト						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

マンガ制作の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的なマンガに関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1)マンガ制作の意義や基礎的な理論について理解を深めることができるようにする。
 (2)マンガ制作に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
 (3)マンガ表現を追求する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	オリジナルマンガ制作	キャラクター表、イメージボード制作、プロット、ネーム制作 マンガ鑑賞レポート
2学期	オリジナルマンガ制作	読み切り作品制作 プロット、ネーム制作 マンガ鑑賞レポート
3学期	オリジナルマンガ制作	読み切り作品制作 プロット、ネーム制作 マンガ鑑賞レポート

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。